旗の林が動く 官業労働の行列

護國寺から出て悲痛に 而も賑かに飛鳥山まで

日本官業労働総同盟大會の第三日は二日午前十時から一大示威運動を擧行することゝなつて午前九時から芳川派の小石川労働會のものを始めとして續々と指定された各地の會場に詰かけて十一時には其數約三千餘に達し、御賄を濟せ東京側は最後の武器たる罷業の決議を以て東京側は最後の武器たる罷業の決議を以て

總てを 進行し

十二部隊に分けて「失業者を救へ」とか「吾等の生命は國家が保證せよ」とか「二ケ年分の退職手當を給與せよ」とか「失業は罪惡だ」とか大書した紅や白の旗を列中に林の如く押立てる、各部隊長を先きに隊伍を整へて足立、横田を始め大阪工業會、八幡同志會の各代表連は

先頭に

一大示威行列は嶷然として大塚仲町方面に恐ろしい勢ひで繰り出す、大塚、富坂兩署の警官は制服約二百名が署長の指揮で五丁餘に亘る行列の兩側に並行し物々しい警戒をして行く、列は労働歌を高唱しつゝ「國家は

専賣局や鐵道にも 聯盟加入を勸誘

軍港各地も一巡して 出來るだけ手を延す

官業労働の陣立

第四回官業労働総同盟大會は結局芳川一派の小石川労働會と

安立一派の

日本労働聯盟の顏を立てゝ鬼をつけたが今後の方針等に就き入木大阪砲兵工廠向上會長は曰ふ「十二日から各地の相談相談を開いて昨年の臨時大會に決議した失業者には日給二ケ年分を支給する事の回答を促しそれが濟んだら軍港所在地の横須賀佐世保等各地を一巡して労働聯盟加入を勸誘し續いて傭臺局鐵道省等にも手を延ばす考へで次に東京の官業労働者も

失業問題に

就ては聯盟の方針にすると大阪は聯盟の數は少いが組織は強固と云ふ傾きがあるので東京は數は多いが組織は強固と云ふ傾きがあるので來年の大會は三月八幡で開きます最後に今度の大會で最も重要に當へぬ事は東京の官業労働聯盟を代表する安立氏の日本労働聯盟と芳川氏の小石川労働會の爭ひが聯盟に鳥た事です日本労働聯盟は労働

運動の階梯

として第一段階運動を進び小石川労働會は普通選擧を標榜して居るので之は表面の理由で兩氏の勢力爭ひと云ふ事情の爲めに聯盟が不和の最大原因となりますが兩氏の爲めに聯盟が二つに分れて居ると云ふ事は不合理な事ですから兩氏には會員の自覺に依つて合同する樣に來る事と思ひます勢力は兩氏とも聯盟内の労働聯盟が二つに分れて居ると云ふ事は不合理な事ですから兩氏には會員の自覺に依つて合同する樣に來る事と思ひます勢力は兩氏とも聯盟内の労働聯盟が

軍港は總員で押掛く

官業労働の面々が 手分して言質取り

十三日午後十二時安達日本労働聯盟會長巾田八幡同志會理事外三名の官業労働總聯盟の代表者が兼議院の交渉室で田中農商務次官と會見して八幡製鐵所は戰時中一億數千万円の利益を國庫に收めて居るから失業者を出した場合には

他省以上に

努力すると云ふ言質を押へて居る間に八木向上會長藤頭兵支部長等の代表者は海軍省を訪問して岡田軍政本部長と面會したが軍政部長が労働組合は現在では害はあつても益はないとか失業者が平和産業に就くまで

十二ケ年分の日給を要するとは思はれまいとか逆襲したので

一二三押問答

を繰返したが結局失業者を出さぬ樣に努める旨の回答を得て溫順なく引下つた次いで陸軍省は意地が惡いと云ふので全員總出で押掛けたが上官連は都合が惡いと云ふので工政課の内藤巾佐で我慢したもの〳〵失業問題は

目下研究中

の二字張で押通された爲何時まで居ても埒があかぬに腕押しだと呟いて午後三時遂々引揚げた